

「神戸市役所本庁舎 2 号館再整備基本計画（案）」に対する  
市民意見提出手続（パブリックコメント）の実施結果について

1. 期間

令和元年 11 月 18 日（月）～令和元年 12 月 27 日（金）まで 計 40 日間

2. 提出された意見数

計 6 件

3. 意見の主な内容

- ・市の新たなランドマークとなるような新庁舎にしてほしい。
- ・是非この一等地に外資系ホテルを誘致してほしい。
- ・世界から人が集まる建築であり、100 年語り継がれる場所であってほしい。
- ・音楽ホールにはリハーサル室や練習場を併設し、一般利用ができるようにしてほしい。
- ・防災対策強化を進め、強靱な防災力を持ち、環境にやさしいエネルギーシステムを導入してほしい。
- ・再整備にかかる費用は分かりやすく情報提供してほしい。

等

4. 今後について

- ・提出された市民意見については、ワークショップやシンポジウムで出された意見と合わせて基本計画（案）に反映する。
- ・また 3 月頃には、本事業に関心のある民間事業者に対して、対話を通じて意向等を確認する「マーケットサウンディング」を実施するなど、引き続き様々な方法で意見の収集を行い、本事業の取組みに活用していく。



## 神戸市役所本庁舎新2号館および周辺公共空間のあり方を考えるワークショップ 実施報告

- (1) 日 時 令和元年12月14日(土) 10:00~18:00、15日(日) 10:00~19:00  
(2) 場 所 神戸市役所2号館、市庁舎周辺  
(3) 参加者 神戸のまちづくりに関心があり、建築・造園・土木・都市計画・デザイン等を専攻する大学(院)・専門学校生(23名)  
(4) 体 制  
ファシリテーター・チューター
- ・大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 准教授 武田 重昭 氏
  - ・建築家 ALTEMY 代表 津川 恵理 氏
  - ・京都大学 工学部非常勤講師 八木 弘毅 氏
  - ・神戸芸術工科大学 環境デザイン学科 助教 矢吹 剣一 氏

### (5) 実施内容・実施結果

#### ① 1日目

市庁舎周辺エリアに関する情報提供や神戸市役所本庁舎2号館再整備基本計画(案)の紹介、現地調査等を行ったのちに、5つのグループに分かれてグループワークや中間発表を行い、検討状況の確認や今後の検討の方向性について指導がなされた。

#### ② 2日目

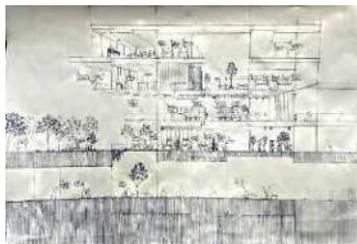
引き続きグループワークが行われ、午後の発表に向けて各グループにより成果物の作成が進められた。成果発表では、チューターによる審査の結果、A班「混じり溶け合う人々」、B班「第三の view (3rd view)」の2作品が優秀作品に選定された。



## 【参考】各グループによる提案の概要

### (1) A班 「混じり溶け合う人々」

対象敷地が結節点となり、神戸の各エリアから集まる「人」のコミュニティを再編するため、神戸の各エリアに存在する仮想人物に沿ったシナリオを作成。そのシナリオをもとに、神戸の各エリアの人が混じりあうために必要となる低層部の空間を提案。



### (2) B班 「3rd view」

神戸を代表する海や山の風景に並ぶ「第三の view (3rd view)」を創出するというコンセプトで、人々が集える公共空間を作り出した作品。新しく神戸が生まれ変わるために「3rd view」を人の動き、群衆の集まりの中に生み出していくことが必要であるという示唆を見出した提案。



### (3) C班 「溜まり『場』と溜まり『事』」

パブリックスペースにおいて、人や物が溜まる「溜まり場」を設けることで、そこで起きる現象（「溜まり事」）をデザインした作品。歩行者空間において、歩きやすくするだけでは面白くないという新しい視点からデザインされた「溜まり場」によって、ヒューマンアクティビティを創出していく提案。



### (4) D班 コンセプト「庁舎 in the park」

市庁舎がもともと生田川の土手の上にあったことや東遊園地の一部であったことを踏まえて、東遊園地の中に庁舎が建つような形で作り替えた作品。東遊園地のリサーチを丁寧に行い、東遊園地の要素を再構成して、新施設の利用者が憩える屋外空間を提案。



### (5) E班 コンセプト「ながれ」

「人の流れ」をテーマとして、三宮駅前から神戸市役所、ウォーターフロントまでを安全に繋ぐペDESTリアンデッキをつくり、立体的な回遊をすることで人々のにぎわいを創出する作品。緩やかに流れるような造形にすることで、人々が歩いてワクワクするような空間を提案。



神戸市役所本庁舎2号館再整備に関するシンポジウム  
「市庁舎エリア周辺エリアのこれからを考える」  
～訪れたくなるまち・憩いたくなる空間とは～  
実施報告

- (1) 日 時 令和元年12月22日(日) 14:00～16:00  
(2) 場 所 デザイン・クリエイティブセンター神戸 KIITO ホール  
(3) 参加者数 132名  
(4) 内 容 ①都心再整備、本庁舎2号館再整備の取り組みの紹介  
②学生ワークショップの報告  
③パネルディスカッション  
(パネリスト)  
神戸大学大学院工学研究科 教授 末包 伸吾 氏 (コーディネーター)  
大阪市立大学大学院工学研究科 教授 嘉名 光市 氏  
大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 准教授 武田 重昭 氏  
神戸モトマチ大学代表 村上 豪英 氏  
建築家 ALTEMY 代表 津川 恵理 氏

- (5) パネルディスカッションでの主な意見
- ・「3rd view」の提案にあるように、新しい神戸のイメージを潜在的に思い浮かべるような、新しいviewが必要。
  - ・2号館のある土地は、三宮南側への入り口として市民に開かれているということが重要。
  - ・オフィス街でよく見られる公開空地のような扱いではなく、ここにしかない風景を作るべき。
  - ・人が関わっていることを感じられる仕掛けを作ることが市庁舎周辺のにぎわいとして必要。
  - ・市民と一緒に頑張っていくことができれば、市民は自然と公共空間を使えるようになる。
  - ・人と空間の関わりを第一に考えたパブリックスペースが、新2号館の低層部に求められる機能である。
  - ・尖ったものを含め、世の中の様々なニーズを把握する必要がある。
  - ・市民と対話しながら事業を進める頭の柔らかいコーディネーターが必要。



シンポジウムの様子



シンポジウム会場内